

宇都宮メディア・アート専門学校
4コマ漫画
「歴史講座」

まんがアート科2年 結城源太



平成30年度歴史講座
第4回・第5回



「とちぎの山車・屋台と益子の屋台」

3月2日(土)、中央公民館において、歴史講座兼文化財ガイド養成講座が開催され、県内の山車・屋台研究の第一人者である池田貞夫氏による「とちぎの山車・屋台と益子の屋台」の講演が行われました。当日は、53名の参加があり、山車や屋台が祭りに練り出す由来

まなびの広場



から、その分類、宇都宮二荒山神社の菊水祭で活躍した山車や屋台の行方など、実際の画像を交えて詳細な説明があり、参加者は大変興味深く講演を聞いていました。

太平洋戦争時の宇都宮大空襲で市内の山車や屋台の大半が焼失してしまいましたが、明治時代頃に県内各地に譲られたことで残った山車や屋台が、現在も益子町を含め各地で活躍していることは、とても感慨深いことです。

池田氏は、益子町は歴史的・美術的に優れた山車や屋台が現存しておりしかも、多くの若者が、その巡行に参加しているのは素晴らしいことで、今後も祭りを改革しながら伝統を守ってほしいと講演を結びました。

「黒羽藩主大関増裕の改革と下之丞」

3月17日(日)に歴史講座が行われました。講師は東海大学教授の馬場弘臣先生です。先生は今から37年前の益子町史編纂に関わった方で、当時は大学生だったそうです。52名の方が参加されました。黒羽藩1万8千石。黒羽あたりを上之庄、飛び地の益子村、七井村など6か村を下之庄と呼び両方に陣屋があったそうです。下之庄は石高で約5千石。

15代藩主の増裕公は謎の人物で、外様大名でありながら陸海軍奉行、若年寄等を歴任、藩の民政改革・軍制改革等に取り組み、31歳の若さで急死します。

荒れた農村の復興を民間委託(生田目村の加藤弥平太を勧農役に登用)や浄土真宗門徒の入植等、興味あるお話がありました。詳しくは益子町史をご覧くださいとのこと。資料は、教授のHPにアップするとのことでした。

